

シリーズ
われら信州人

第5回「教育」

報告書

(1999年3月初旬~4月中旬調査)

調査の設計 1

シリーズ「われら信州人」
のテーマ 3

主要な結果 4

調査のポイント 14

結果の詳細 20

VI 単純集計結果 48

VII 調査票 55

I 調査の設計

調査の目的

1年に1回、シリーズで県民の考え方や行動を探る「われら信州人」の第5回は「教育」をテーマに取り上げた。

教育現場の荒廃や入試改革といった最近の動向を踏まえて、伝統的に教育への関心が強い県民各層から、教育の現状に対する素直な声を汲みつつ、これからの方向性について、どう考えているのか - を主眼に探った。

(調査の全般にわたり、飽戸弘・東大名誉教授と坂井博通・埼玉県立大学助教授の監修を仰いだ。

調査の設計

調査対象 長野県内にすむ20歳以上の男女1200人

抽出方法 層化二段無作為抽出法。対象者は各市町村の選挙人名簿から抽出

調査方法 郵送

調査期間 1999年3月4日～4月16日

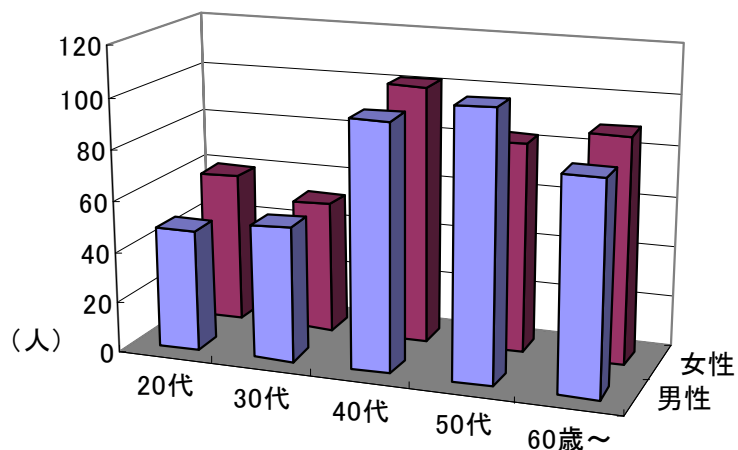
調査地点 17市28町18村の計120地点(1地区各10人)

回収結果 有効回収数(率) 772人(64.3%)

サンプルの内訳

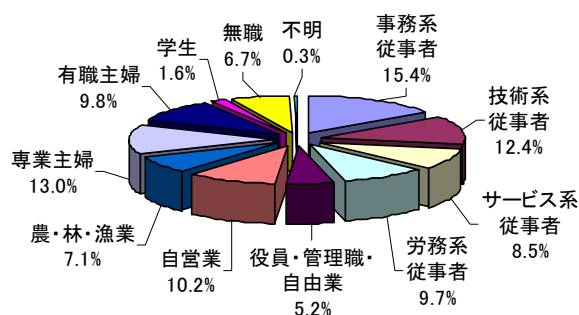
<性別と年代>

	合計	20代	30代	40代	50代	60歳～
男性	386	48	53	97	105	83
	50.0%	6.2%	6.9%	12.6%	13.6%	10.8%
女性	386	60	52	102	83	89
	50.0%	7.8%	6.7%	13.2%	10.8%	11.5%



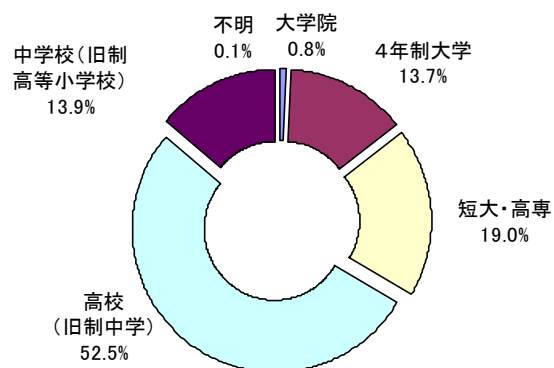
< 職業 >

事務系従事者	119	15.4%
技術系従事者	96	12.4%
サービス系従事者	66	8.5%
労務系従事者	75	9.7%
役員・管理職・自由業	40	5.2%
自営業	79	10.2%
農・林・漁業	55	7.1%
専業主婦	100	13.0%
有職主婦	76	9.8%
学生	12	1.6%
無職	52	6.7%
不明	2	0.3%



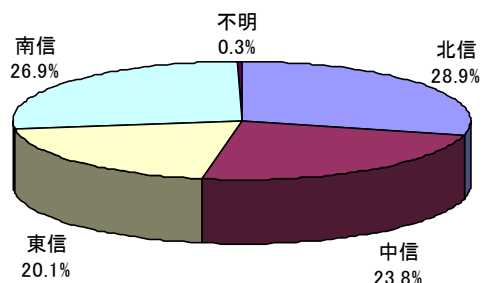
< 最終学歴 >

大学院	6	0.8%
4年制大学	106	13.7%
短大・高専	147	19.0%
高校（旧制中学）	405	52.5%
中学校（旧制高等小学校）	107	13.9%
不明	1	0.1%



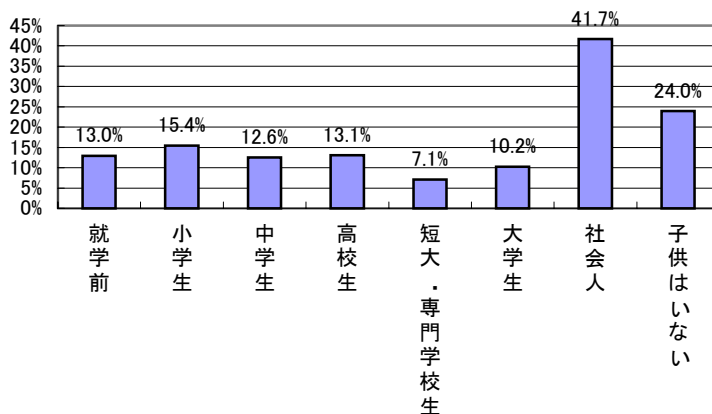
< 地域別 >

北信	223	28.9%
中信	184	23.8%
東信	155	20.1%
南信	208	26.9%
不明	2	0.3%



< 子供の有無と年代 >

就学前	100	13.0%
小学生	119	15.4%
中学生	97	12.6%
高校生	101	13.1%
短大・専門学校生	55	7.1%
大学生	79	10.2%
社会人	322	41.7%
子供はいない	185	24.0%



Ⅱ シリーズ「われら信州人」のテーマ

第一回「郷土・地域意識編」1994年(平成6)年11月調査

<主な調査項目>

- ・住みやすさ
- ・愛着感
- ・県民として誇れるもの、自慢できるもの
- ・長野県民の気質
- ・長野県の将来の見通し
- ・住み続けたいか

第二回「生活編」1995年(平成7)年11・12月調査

<主な調査項目>

- ・現在の生活の満足度
- ・普段感じている不安や悩み
- ・いま関心を寄せているもの
- ・作っている自家製の漬物
- ・情報・通信機器の中で現在家庭にあるものまた今後購入したいもの
- ・自由な時間の過ごし方
- ・隣近所との交際状況
- ・食生活において気をつかうこと
- ・洋服・衣類を選ぶのは誰

第三回「自然と環境」1997年(平成9)年3月調査

<主な調査項目>

- ・信州の自然について
- ・信州の自然は守られているか
- ・10年前と比べてどうか
- ・環境保全のために日頃心がけていること
- ・自然・環境はかいをくいとめるものは何
- ・自然と人間の関係
- ・信州の自然景観について
- ・美観を損ねるもの

第四回「家族」1997年(平成9)年12月調査

<主な調査項目>

- ・家族と話をする頻度
- ・家庭の役割
- ・家庭生活に必要なもの
- ・望ましい家庭生活
- ・現在の家庭生活の満足度
- ・親戚づきあいの程度
- ・結婚観
- ・主導権を握るのは誰
- ・子供に期待すること
- ・青少年の犯罪の原因
- ・老後の不安

第五回「教育」1999年(平成11)年3月調査

<主な調査項目>

- ・子供への接し方
- ・習い事について
- ・学校の完全週五日制について
- ・いじめにあった子供の相談相手は
- ・中・高一貫教育への期待度
- ・学習塾の必要性
- ・一芸、推薦入学の是非
- ・「長野県は教育県」と思うか
- ・期待する小学校の先生の資質
- ・学歴問題
- ・日本の教育の全体的な方向

Ⅲ 主要な結果

① 教育熱心さ(問1-C)

「自分は教育熱心でない」5割
大学生の親は肯定多め

教育熱心だと自負している人は、男女を通じて1割半ばで、意外に低い数字となった。対照的に「そうは思わない」は、男女ともに5割に達した。

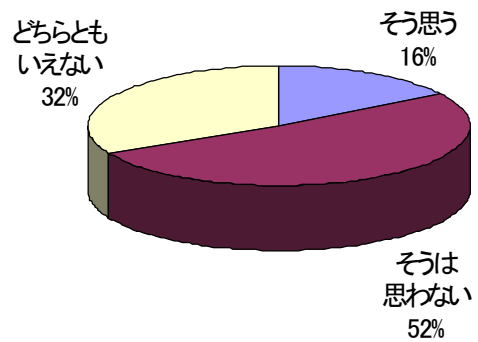
職業別で比較的「思う」の比率が高めなのは事務系勤め人、農林業、無職などで2割を超えた。郡部に比べて、市部の方が数ポイントほど教育熱心の度合いが高めになっており、総体的に高学歴の人ほど、教育熱心であることを認めている。

自分の子どもの年代別では、短大・4大が最も高く、次いで中学・高校・社会人・子どものいない人が中間値に位置し、就学前・小学生が最も低いという三層をなしている。

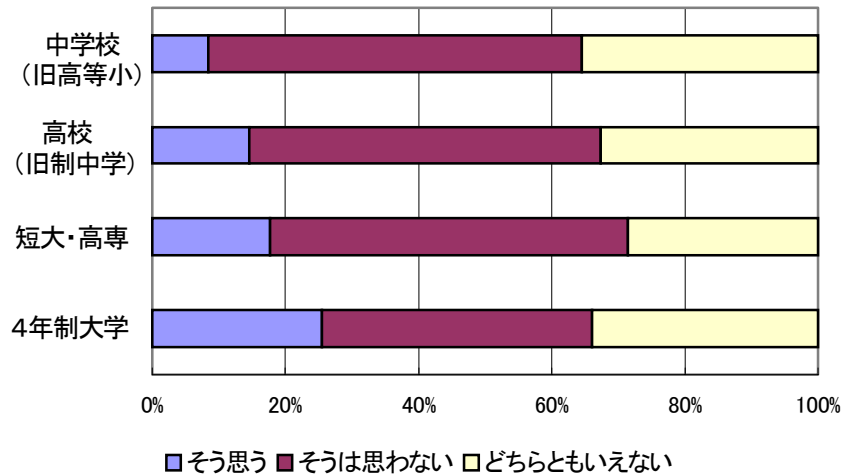
生活を切りつめても教育投資を、という人は、4割近くが教育熱心さを

をみせているのを筆頭に、受験競争に肯定的な人や、長野県が教育県だと思う人ほど、その度合いが高めになっている。

< 全体 >



< 学歴別 >



「教育熱心」と思わない人は...

<受験競争の必要性>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	21.5	52.5	23.2	2.6
そう思う	32.3	44.4	21.8	1.6
そうは思わない	18.3	58.8	20.1	2.5
どちらともいえない	21.2	46.4	28.8	3.2

<教育県だと思うか>

	思う	思わない	なんともいえない	分からない
全体	6.6	65.8	21.4	6.0
そう思う	10.5	68.5	16.9	4.0
そうは思わない	4.8	69.8	18.1	7.3
どちらともいえない	7.6	58.0	28.8	4.8

へ
教育熱心
へ

回答者のざっと半数を占める「教育熱心ではない人」は、そうした冷めた姿勢に相応して、一般的に教育に対する消極的な構えがみられ、現実敏感な「教育熱心を自認する人」との落差が生じている。

[受験競争の必要性]については、子どもの能力を伸ばすかどうか、という見地からの設問に、教育熱心とは思わない人で、必要性を否定するのは6割近くにのぼった。教育熱心な人よりも十数ポイントも上回る。肯定的な立場の人は2割に至らなかった。

受験競争の意義に6割否定的 全般に消極姿勢

[出世と出身校]では、関連性があると思うのは、教育熱心な人では半数を突破したが、熱心でない人はそれより10ポイントほど下回った。

[教育県]とみなすかどうかについては、7割近くが否定。[教育の方向]については「ある程度の手直し」「根本的な改革」を求める比率はいずれも全体での値よりも低く、やや後ろ向きな感覚がうかがわれる。

その一方で[義務教育への期待]では「友達づくり・自然に親しむ・体力・自分に合った能力」などの項目で、教育熱心な人に比べて期待が高めといった、学力に偏しない独自性もみられる。

<出世と出身校の関連の有無>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	48.3	28.4	19.7	3.4
そう思う	56.5	23.4	16.1	4.0
そうは思わない	47.2	31.9	17.3	3.5
どちらともいえない	46.0	25.2	25.2	2.8

<日本の教育の方向への評価>

	ほぼ今のままでよい	ある程度は手直しの必要がある	根本的な改革を迫られている	なんともいえない
全体	4.1	51.2	31.7	12.8
そう思う	1.6	54.8	39.5	4.0
そうは思わない	5.0	49.7	30.2	14.8
どちらともいえない	4.0	51.6	30.4	14.0

へ
教育熱心
へ

受験競争 (問 13)

高い年代ほど肯定増える

受験競争のメリット、半数は否定的

子どもの能力を伸ばすうえで、受験競争は必要かどうか - 否定が半数を超え、肯定は2割にとどまった。4分の1近くが判断に迷うという結果になった。

否定的な人の主力は30～40代で6割。肯定的な人は年代が上がるにつれて増えていく。

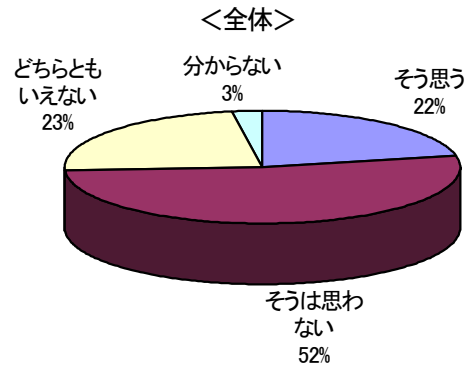
職業別では、肯定派は農林業の4割をトップに、管理職層が比較的多い。否定派では技術系勤め人、自営業の6割を筆頭に無職層などがめだつ。主婦層の3割は「どちらともいえない」という反応である。

地域的には、肯定的な態度で、北信24% - 南信19%といった開きが生じている。また、高校、4大卒は4分の1が受験競争を好意的にみているのに対して、短大卒は1割余というコントラストがみられる。

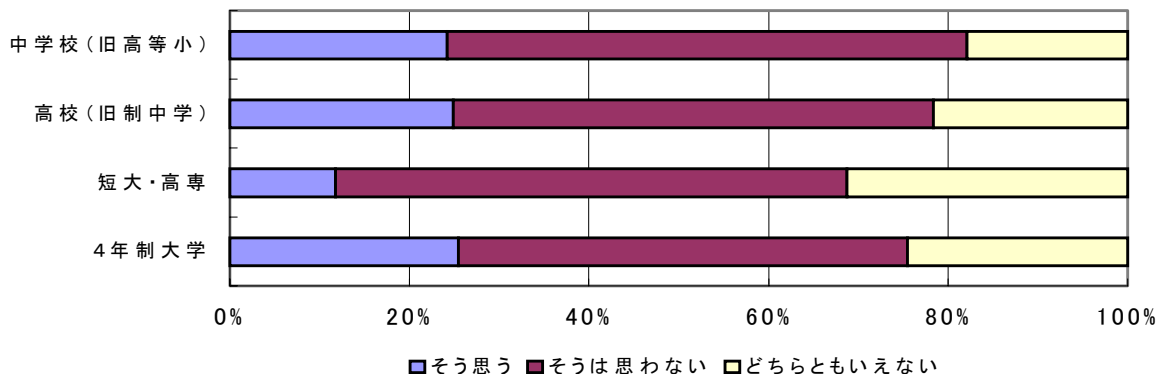
自分の子どもの年代でみると、就学前～高校生の親は否定で全体での比率を超え、短大・高専～社会人の親は肯定がそれを上回る - という画然とした相違が浮き彫りになった。

教育熱心な人 長野は教育県だと思ふ人 生活を切りつめても教育費に 日本の教育は現状のままでよいという人 - は受験競争の役割に対して、全体での比率よりも10ポイント程度高く肯定的に受け止めている。

ちなみに、NHK放送文化研究所による全国県民意識調査(1996年)の同じ質問では、長野県民は「そう思う」22%(全国平均20%)、「そうは思わない」56%(同64%)、「どちらともいえない」17%(同13%)、「わからない」5%(同4%)。



< 学 歴 別 >



受験競争に「否定的」な人は...

< 教育熱心さ >

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない
全体	16.1	51.6	32.4
そう思う	24.1	44.0	31.9
そうは思わない	13.6	57.8	28.6
どちらともいえない	15.1	44.7	40.2
分からない	10.0	50.0	40.0

< 教育県だと思うか >

	思う	思わない	なんともいえない	分からない
全体	6.6	65.8	21.4	6.0
そう思う	9.6	65.7	21.1	3.6
そうは思わない	5.9	71.1	17.5	5.2
どちらともいえない	5.6	59.2	28.5	6.7
分からない	5.0	20.0	40.0	35.0

受験競争

受験競争の意味に否定的な人は全体の半数を占める。その中で〔教育県〕に否定的な人は、7割にのぼる。〔教育熱心〕に否定的な立場の人も6割近くあり、いずれも強い結びつきがみられる。学習塾は不要と考える比率も高めた。

現状に距離を置き、教育改革には独自の期待感

また〔出世と出身校〕の関連が強いとみる人は半数をわずかに超え、全体での比率をやや上回る程度。出身校別の合格者発表にも、半数近くが好ましくないという態度だ。

その一方〔教育の方向〕で、根本改革を支持する先鋭的な声が3割半ばに伸びている。それを裏付けるように子どもとの接し方では性別をあまり重んじない 小学校の担任では女性教師の比率が高め 一貫教育への期待感の高め 義務教育には「友達づくり・自然に親しむ」の期待が多め - といった傾向がある。

< 出世と出身校の関連の有無 >

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	48.3	28.4	19.7	3.4
そう思う	54.2	27.7	16.9	1.2
そうは思わない	51.9	27.9	17.5	2.5
どちらともいえない	38.0	30.2	27.4	4.5
分からない	25.0	30.0	15.0	30.0

< 日本の教育の方向への評価 >

	ほぼ今のままでよい	ある程度は手直しの必要がある	根本的な改革を迫られている	なんともいえない
全体	4.1	51.2	31.7	12.8
そう思う	6.0	58.4	27.1	8.4
そうは思わない	4.0	48.1	35.1	12.6
どちらともいえない	2.8	52.5	31.8	12.8
分からない	5.0	40.0	0.0	55.0

受験競争

教育県（問17）

いわゆる“教育県”の一枚看板について、その通りだと「思う」は1割に届かず、「思わない」7割近く、「なんともいえない」2割強という結果。

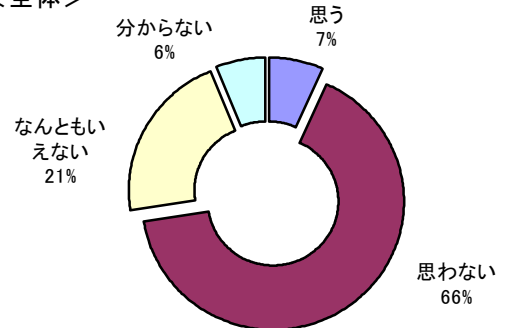
“レッテル先行”とみなす県民の冷静な目線が如実に示された。男性の方が認否ともに高めで、女性は4分の1ほどが判断に迷いをみせている。

「思う」は50～60代では10%と比較的多めで、大学生の親は肯定的な姿勢が突出している。だが、就学前～高校生の子は軒並み全体での比率を下回る。

殊に40代ではわずか3%台に急落し、逆に「思わない」が80%に迫るほどの厳しさが現れた。60代は否定の度合いがぐんと下がり、5割を少し上回る程度にとどまっている。

職業別で教育県と認めるのは、労務系勤め人系や自営業、管理職層が多めで1割。認め

<全体>

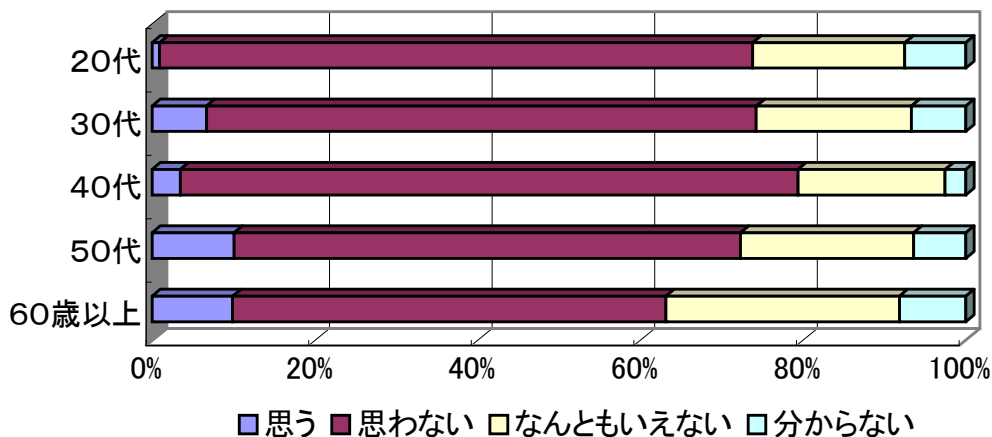


長野は教育県 - 肯定わずか7% 否定は66%

ないのは技術系の8割を筆頭に、事務系勤め人などがめだつ。管理職はこちらでも4人に3人は否定的。学歴別では、4年制・短大卒の方が高校・中学卒よりも否定的なスタンスをとっている。郡市別ではほとんど違いはみられないものの、地域間では北信、南信で肯定が多め。中信、東信は否定が多めといった区分けになる。

「生活を切りつめても」と教育に自己犠牲的な気持ちの人は、肯定が1割目前。逆に、教育投資に冷めた姿勢の人は、教育県否定が7割を超す。同じように、教育の根本的な改革を求める人は、教育県に否定的な立場をとる人が7割半ばを占める。

<年代別>



長野が教育県と「思わない」人は...

<教育熱心さ>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない
全体	16.1	51.6	32.4
思う	25.5	37.3	37.3
思わない	16.7	54.7	28.5
なんともいえない	12.7	43.6	43.6
分からない	10.9	63.0	26.1

<受験競争の必要性>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	21.6	52.5	23.2	2.6
思う	31.4	47.1	19.6	2.0
思わない	21.5	56.7	20.9	0.8
なんともいえない	21.6	43.0	30.9	4.8
分からない	13.0	45.7	26.1	15.2

へ
教育県
へ

教育県と思わない人の中で〔教育熱心〕や〔受験競争〕に否定的な人は 5 割半ばに達する。生活を切りつめて教育投資を、とは考えない人も 5 割を超える。

教育投資に消極的、学歴社会には同感めだつ

〔出世と出身校〕については、実社会での結びつきに否定的な人よりも、肯定する人の方がはるかに多く、やはり 5 割を突破する。〔教育の方向〕では、ある程度の手直し 5 割で、教育県に肯定的な人よりもやや低めだが、根本改革では 3 割半ばでほぼ足並みをそろえている。

週 5 日制に関しては「ゆとりが増す」「野外活動が盛んになる」のメリットが全体での比率を下回り「授業にゆとりがなくなる」ではかなり高めで、全般的にデメリットが前面に出ている。その半面、義務教育に対しては、基礎学力や友達づくりに多めの期待感を寄せている。

<出世と出身校の関連の有無>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	48.3	28.4	19.7	3.4
思う	39.2	27.5	31.4	2.0
思わない	53.3	28.5	16.3	1.8
なんともいえない	41.8	27.3	26.1	4.2
分からない	28.3	32.6	19.6	19.6

<日本の教育の方向への評価>

	ほぼ今のままでよい	ある程度は手直しの必要がある	根本的な改革を求めている	なんともいえない
全体	4.1	51.2	31.7	12.8
そう思う	3.9	54.9	35.3	5.9
そうは思わない	3.7	50.2	36.2	9.6
どちらともいえない	3.6	56.4	22.4	17.6
分からない	10.9	39.1	10.9	39.1

へ
教育県
へ

④ 出世と出身校(問 23)

短大卒で6割、
中卒は4割弱
学歴社会「**「そう思う」**半数

微妙な判断を迫られるが、あえて直截的に聞いてみた結果は、肯定がほぼ半数だったのに対して、否定は3割に届かない。約2割がどっちつかずの立場であった。

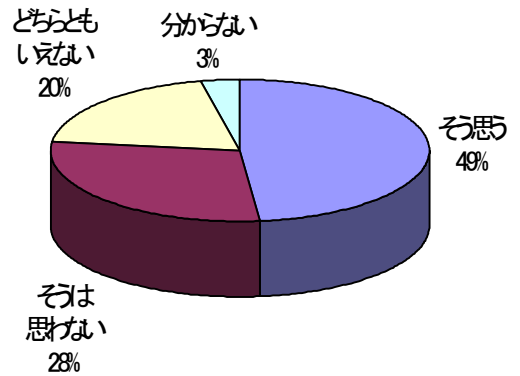
男女に大きな違いは現れなかったが、年代的には40～50代の半数が「そう思う」と答えたが、20代では4割を割った。職業別で肯定が多めなのは働く主婦や無職。逆に否定ではサービス系勤め人や農林業。管理職層は両方に高めに出ている。

学歴でみると「そう思う」人のうち、中間値の4大卒と高校卒を挟んで、短大卒が6割弱、中学卒は4割弱といった開きが出た。子どもの世代別では、小学生・大学生・社会人の親は肯定的な傾向、就学前と高校生を軸に否定的な傾向が強めた。

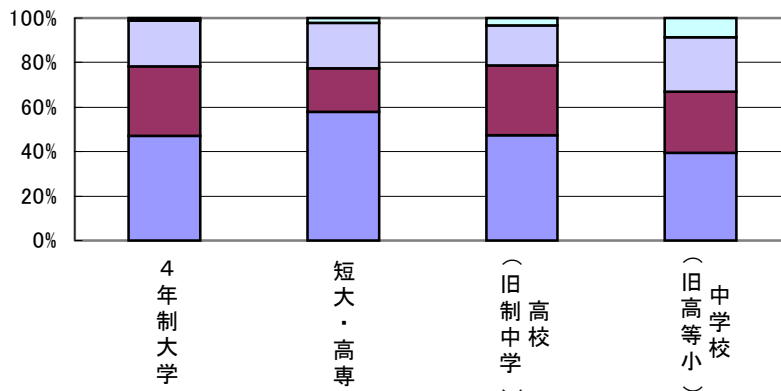
教育に対する姿勢では、学習塾の役割を評価する人は、実に肯定が6割を突破した。教育熱心だったり、受験競争に肯定的な人も同様の姿勢だ。その一方で、教育県と認める人よりも、否定する人の方が出世との関連性が強いという判断をしている。

また、教育の現状を認める人と、根本改革を求める人が「そう思う」5割半ばと、全く同様のスタンスをとっているのは興味深い。

< 全体 >



< 最終学歴別 >



■そう思う ■そうは思わない □どちらともいえない □分からない

出世と出身校には「関連ある」と思う人は...

< 教育熱心さ >

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない
全体	16.1	51.6	32.4
そう思う	18.8	50.4	30.8
そうは思わない	13.2	58.0	28.8
どちらともいえない	13.2	45.4	41.4
分からない	19.2	53.8	26.9

< 受験競争の必要性 >

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	21.5	52.5	23.2	2.6
そう思う	24.1	56.3	18.2	1.3
そうは思わない	21.0	51.6	24.7	2.7
どちらともいえない	18.4	46.7	32.2	2.0
分からない	7.7	38.5	30.8	23.1

〱 出世と出身校 〰

実社会での学歴の影響を認める人は、全体の約半数を占める。その中で〔教育熱心〕を自認する人が占める比率は、全体での比率よりも高い。学校・家庭の役割分担や、子育てでは男女の区別にこだわる傾向が強め。子どもの学歴では、男女にかかわらず4大を望む比率がかなり高い。

現状への不満をテコに、子どもの4大志向強め

また〔受験競争〕の意義を認める・認めない立場ともに高め、教育に関する立場をはっきりさせている方だ。〔教育県〕の否定は7割を超す。その理由としては、大学進学率の低さを、かなり強く押し出している。

〔教育の方向〕では、根本改革を志向する人が全体での比率より数ポイント高く、現状に対する強い不満が見え隠れする。週5日制に対しては「親の負担・生活の乱れ・ゆとり現象・学力格差」のデメリットが多めだ。

< 教育県だと思うか >

	思う	思わない	なんともいえない	分からない
全体	6.6	65.8	21.4	6.0
そう思う	5.4	72.7	18.5	3.5
そうは思わない	6.4	66.2	20.5	6.8
どちらともいえない	10.5	54.6	28.3	5.9
分からない	3.8	34.6	26.9	34.6

< 日本の教育の方向への評価 >

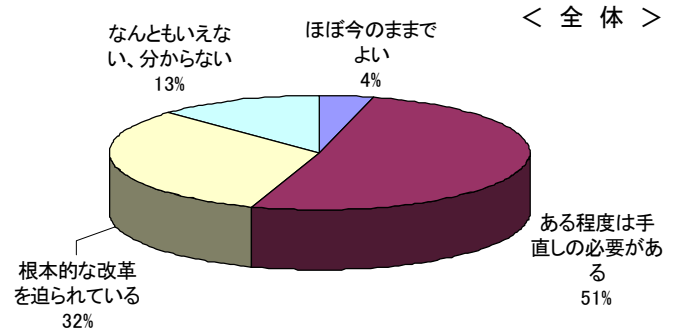
	ほぼ今のままでよい	ある程度は手直しの必要がある	根本的な改革を自覚している	なんともいえない
全体	4.1	51.2	31.7	12.8
そう思う	4.8	47.7	37.0	10.5
そうは思わない	4.1	51.6	32.9	11.0
どちらともいえない	2.6	61.8	20.4	15.1
分からない	3.8	34.6	11.5	50.0

〱 出世と出身校 〰

⑤ 日本の教育の方向 (問 28)

「現状のままでよい」4%
手直し5割、根本改革3割強

教育の方向に対して、現状に肯定的な人はわずか4%。「ある程度の手直し」「根本的な改革」を合わせた、なんらかの改善が必要と思う人は8割を超えた。その内訳は、手直し派5割、根本的改革は3割強。



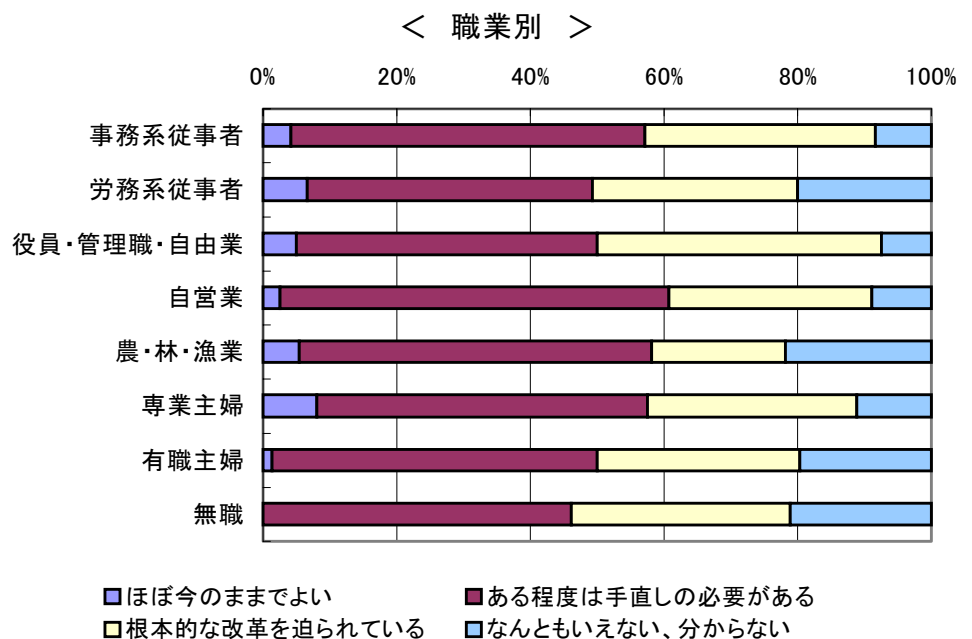
男性の方に根本改革の声が強め。また、年代的には40代では4割に達する。それに対して、30代は手直し派が6割を超えた。

職業別では、技術系勤め人と自営業は手直し派が多め、改革派は管理職層とサービス系勤め人にめだつ。専業主婦は「今のままでよい」が8%と他に比べて多い。

子どもの年代では、短大生や就学前の親は手直し派の比率が多め、中学生や大学生の親は根本的改革派の比率が多めだ。

地域的には市部は根本改革、郡部はある程度の手直しが全体での比率よりも高い。また、学歴が高くなるにつれて、根本改革を求める割合が増える。

教育熱心な人のほとんど全員がなんらかの改善を求め、根本改革の比率も高い。受験競争を是認する立場の人は比較的、手直しが多めになっている。



教育の「根本的改革」を望む人は...

<教育熱心さ>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない
全体	16.1	51.6	32.4
ほぼ今のままでよい	6.3	62.5	31.3
ある程度は手直しの必要がある	17.2	50.1	32.7
根本的な改革を迫られている	20.0	49.0	31.0
なんともいえない	5.1	59.6	35.4

<受験競争の必要性>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	21.5	52.5	23.2	2.6
ほぼ今のままでよい	31.3	50.0	15.6	3.1
ある程度は手直しの必要がある	24.6	49.4	23.8	2.0
根本的な改革を迫られている	18.4	58.0	23.3	0.0
なんともいえない	14.1	51.5	23.2	11.1

へ
教育の方向
へ

日本の教育について、なんらかの改善を望む人が8割を超える。その中で根本的改革を望む人は[教育熱心]と[出世と出身校]については、肯定の度合いが高め。

他方[教育県]とは思わない人は7割半ばで、全体での比率を10ポイントも上回る。その理由は、信濃教育会の指導や教師・施設に対する不満が多めで、他に比べて進学率のもの足

指導体制への不満多め、現役進学率には少なめ

りなさは低めなのが特徴的。[受験教育]の意義を評価しない人も多めになっている。

子どもとの接し方では「男・女らしく」区別する姿勢はあまりとらない半面、友達感覚にもやや冷淡。学校・家庭の役割分担にもこだわりが強め。女の子の4大進学には、全体での比率を上回る支持を寄せている。

週5日制の見通しでは、子どものゆとりや家族のふれあいが増すことには疑問が多めで、親の負担や遊びぐせなどの懸念を示す度合いが高い。

身近にいじめ・不登校の問題があるのは3割を超え、全体での比率をかなり上回る。相談相手としての学校の評価はあまり高くはなく、専門家の方を買う向きが強い。

<教育県だと思うか>

	思う	思わない	なんともいえない	分からない
全体	6.6	65.8	21.4	6.0
ほぼ今のままでよい	6.3	59.4	18.8	15.6
ある程度は手直しの必要がある	7.1	64.6	23.5	4.6
根本的な改革を迫られている	7.3	75.1	15.1	2.0
なんともいえない	3.0	49.5	29.3	18.2

<出世と出身校の関連の有無>

	そう思う	そうは思わない	どちらともいえない	分からない
全体	48.3	28.4	19.7	3.4
ほぼ今のままでよい	56.3	28.1	12.5	3.1
ある程度は手直しの必要がある	45.1	28.6	23.8	2.3
根本的な改革を迫られている	56.3	29.4	12.7	1.2
なんともいえない	39.4	24.2	23.2	13.1

へ
教育の方向
へ